

学長式辞

春爛漫のこの佳き日、令和7年度宮崎国際大学入学式を挙行できますことは、大きな喜びであります。宮崎大学鮫島学長様をはじめとして、ご来賓各位におかれましては、公私ともどもご多忙なところ、多数のご臨席を賜り、心より厚くお礼申し上げます。ただいま、入学を許可されました学部新入生、大学院新入生の皆さん、入学おめでとうございませう。また、ご列席のご家族の皆さまにも、心からお祝い申し上げます。新入生の皆さまは、この喜びの日を迎え、期待に満ちあふれているのではないかと思います。本年は、日本に加え、バングラデシュ、スリランカ、ミャンマー、フィリピン、韓国、ナイジェリアからの留学生を迎え、大変嬉しく思います。

本学が立地する地は、儒学者である安井息軒先生の父 滄州先生が、清武にこそ学問の場が必要であるとのことで、私塾である「明教堂」を開き、儒学を教えられた地です。安井息軒先生をはじめ、明治初期の日本の近代化実現に向けて、人材を送り出した地は、まさに「学びの丘」であります。先人たちの清武から学問を発信したいという願いは、190年の歴史を経て、今もなお脈々と受け継がれています。

本学の創設者大坪久泰先生は、平成6年、世界のそれぞれに異なった文化を、グローバルな視点から見つめなおし、「比較文化学」という学問を追求できる最上の環境を提供するために、宮崎国際大学を創設されました。本学は、31年の歴史を刻んでいます。

国際教養学部の国際的リベラル・アーツ教育は、グローバル人材育成の観点からも高い評価を得ています。本年3月の卒業生は、高い語学力と思考力を身に付け、航空会社、公務員、ホテル、上場企業など、それぞれの夢をかなえ巣立っていきました。平成26年に設置した教育学部は、小学校教員採用試験現役合格率が一昨年100%、本年は96%という高い合格率に加え、公務員保育士や認定こども園就職など、エッセンシャルワーカーとしても素晴らしい実績を挙げました。加えて、本年3月修了の大学院1期生は、海外の博士課程に進学予定など学びを深め、それぞれの目標へと進んでいきました。

本学の教育の根幹をなす建学の精神は、「礼節・勤労」です。この建学の精神は、人類の平和、そして学生の人としての成長を願うものです。「礼節」の精神では、自他の人間性を尊重し、自らを律し、他者の立場に立って物事を考えることをめざしています。さらに「勤労」の精神では、心身を労して全てのことに積極的に努力する。何事にも真摯に取り組むことをめざしています。

本日は、学長として皆さんに3つの願いをお話します。一つ目は、学ぶことの喜びを体験して欲しいということ、二つ目は、本学のキャンパスで、多文化共生社会を実感して欲しいということ、三つ目は、新しい自分に出会って欲しいということです。現代は、VUCAの時代と言われています。それは、変動性、不確実性、複雑性、曖昧性の時代を意味します。皆さんもコロナ禍や地震、竜巻の被害、留学生は戦争等、予期しなかった出来事に遭遇し、苦勞した中学、高校生活

であったと思います。同時に、AIなど科学技術の急速な進展により、学びは大きく変わりました。VUCAの時代に求められる力は、正しいという答えがない中で、自ら考え、他者と協働し、新たなものを生み出していく力です。

今日から皆さんの学びは大きく変わります。これまでの「覚える事を中心とした教育」から「考える事を中心とした教育」へと学びが変わります。本学で重視されているのがクリティカルシンキング、すなわち多面的な思考です。学問的な根拠のもとに、他の考えはないかと様々な側面から物事を見ていくことで、新たな考えに到達することがあります。ここに学ぶことの喜びが生まれます。

二つ目は、本学のキャンパスで、多様な価値観に触れ、多文化共生社会を体感してほしいということです。現在、本学教員は14か国、留学生は13か国の方々が本学のキャンパスライフを共にします。学部、学科を超えて、是非交流してください。多くの出身国の方々との交流を通して、自分の当たり前は、全ての人の当たり前ではないことに戸惑いを感じることもあるかもしれません。一緒に食事をしたり、自然を楽しんだり、対話を重ねることで、異なる価値観や生活習慣を持つ方々と共に生きる、すなわち多文化共生が実体験できると思います。この体験は、本学ならではの体験でしょう。

三つ目です。それは、本学での4年間、そして2年間の学びを通して、新しい自分に出会って欲しいということです。皆さんには、多くの可能性があります。今はまだその可能性に気づいていないこともあるでしょう。勉学に加え、クラブ活動、ボランティア活動、資格取得等、様々な新しい経験が皆さんの新しい自分との出会いの可能性を広げていくことになるでしょう。さらに、自分は何のために生き、人のため、社会のために何が出来るだろうかと考えてみてください。自分にしかできないこと、自分だからこそできることがあると思います。

聖書の中には、「私は見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます」という言葉があります。様々なことに挑戦していく中で、見えないものに対しても自分の心で感じるということを通して、新しい自分に出会える可能性が広がると思います。

「見たことのない景色を見て、見たことのない自分に出会う」

この言葉は、本学の卒業生が語ってくれた言葉です。本学での学生生活を通して、新しい、これまで見たことのない自分に出会い、社会へと巣立っていった先輩の言葉です。どうぞ自らの可能性を信じて挑戦し続けてください。勇気をもって、一歩踏み出してください。新しい自分との出会いが待っています。今日がそのスタートです。本学の教職員は、全力で皆さんの新たな学びを支援します。

結びに、宮崎国際大学で皆さんの大学生活が、実り多きものとなりますことを心から願っております。本日よりご列席の皆さまのご多幸をお祈り申し上げまして、学長式辞といたします。

令和7年4月5日

宮崎国際大学学長 山下 恵子